



基本的な監視タスクの設定

ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

基本的な監視タスクの設定	1
ONTAP Active IQ Unified Managerの日次監視を実行する	1
ONTAP Active IQ Unified Managerの週次および月次パフォーマンス傾向を使用して、パフォーマンスの問題を特定します。	1
ONTAP Active IQ Unified Managerパフォーマンスしきい値を設定する	1
ONTAP Active IQ Unified Managerアラートを追加する	2
ONTAP Active IQ Unified Managerアラート設定を構成する	4
ONTAP Active IQ Unified Managerのパフォーマンスの問題を特定する	5

基本的な監視タスクの設定

ONTAP Active IQ Unified Managerの日次監視を実行する

監視を毎日実行することで、注意が必要なパフォーマンスの問題に速やかに対処することができます。

手順

1. Active IQ Unified ManagerのUIから、*イベントインベントリ*ページに移動して、現在のイベントと古いイベントをすべて表示します。
2. *表示*オプションから`Active Performance Events`を選択し、必要なアクションを決定します。

ONTAP Active IQ Unified Managerの週次および月次パフォーマンス傾向を使用して、パフォーマンスの問題を特定します。

パフォーマンスの傾向を確認すると、ボリューム レイテンシを分析して、クラスタの使用率が高すぎたり低すぎたりしないかを判断するのに役立ちます。同様の手順に従って、CPUやネットワークなど、システムの他のボトルネックについても特定できます。

手順

1. 使用率が高すぎるか低すぎる疑いがあるボリュームを探します。
2. *ボリューム詳細*タブで*30 d*をクリックして履歴データを表示します。
3. 「データの内訳」ドロップダウンメニューで、*レイテンシ*を選択し、*Submit*をクリックします。
4. クラスタコンポーネント比較チャートで*Aggregate*の選択を解除し、クラスタのレイテンシとボリュームのレイテンシチャートを比較します。
5. クラスタコンポーネント比較チャートで*Aggregate*を選択し、他のすべてのコンポーネントの選択を解除してから、アグリゲートレイテンシとボリュームレイテンシチャートを比較します。
6. 読み取り / 書き込みレイテンシのグラフをボリューム レイテンシのグラフと比較します。
7. クライアント アプリケーションの負荷が原因でワークロードの競合が発生していないかどうかを確認し、必要に応じてワークロードのバランスを調整します。
8. アグリゲートの使用率が高すぎることで競合が発生していないかどうかを確認し、必要に応じてワークロードのバランスを調整します。

ONTAP Active IQ Unified Managerパフォーマンスしきい値を設定する

重大なパフォーマンスの問題を監視するために、パフォーマンスのしきい値を設定することができます。設定したしきい値に近づいたとき、またはしきい値を超えたときには、警告または重大イベントの通知がトリガーされます。

手順

1. 警告イベントと重大イベントのしきい値を作成します。
 - a. 構成 > *パフォーマンスしきい値*を選択します。
 - b. *作成*をクリックします。
 - c. オブジェクトのタイプを選択し、ポリシーの名前と説明を指定します。
 - d. オブジェクト カウンタの条件を選択し、警告イベントと重大イベントの制限値を指定します。
 - e. イベントを送信するために制限値を超過する必要がある期間を選択し、*保存*をクリックします。
2. しきい値ポリシーをストレージ オブジェクトに割り当てます。
 - a. 以前選択したのと同じクラスタオブジェクトタイプの[インベントリ]ページに移動し、[表示]オプションから*パフォーマンス*を選択します。
 - b. しきい値ポリシーを割り当てるオブジェクトを選択し、*しきい値ポリシーの割り当て*をクリックします。
 - c. 以前に作成したポリシーを選択し、*ポリシーの割り当て*をクリックします。

例

重大なパフォーマンスの問題を特定するためにユーザ定義のしきい値を設定することができます。たとえば、ボリュームのレイテンシが20ミリ秒を超えるとMicrosoft Exchange Serverがクラッシュすることがわかっている場合は、警告しきい値を12ミリ秒、重大しきい値を15ミリ秒のように設定できます。このしきい値の設定を使用して、ボリュームのレイテンシが制限を超えたときに通知を受け取ることができます。

The screenshot shows a configuration window for 'Object Counter Condition*'. It features two threshold settings:

- Warning:** Indicated by a yellow triangle icon, with a value of 12 ms/op.
- Critical:** Indicated by a red 'X' icon, with a value of 15 ms/op.

 The counter type is 'Average Latency ms/op'.

ONTAP Active IQ Unified Managerアラートを追加する

イベントとは、事前定義された条件が発生したとき、またはパフォーマンスカウンタの値がしきい値を超えたときにActive IQ Unified Managerが自動的に生成する通知です。イベントは、監視対象のクラスタにおけるパフォーマンスの問題を特定するのに役立ちます。

特定のイベントが生成されたときに通知するようにアラートを設定できます。単一のリソース、リソースのグループ、または特定の重大度タイプのイベントに対してアラートを設定できます。通知頻度を指定し、スクリプトをアラートに関連付けることができます。

開始する前に

- イベントが生成されたときにActive IQ Unified Managerサーバからユーザに通知を送信できるように、通知に使用するユーザのEメール アドレス、SMTPサーバ、SNMPトラップ ホストなどを設定しておく必要があります。
- アラートをトリガーするリソースとイベント、および通知するユーザのユーザ名またはEメール アドレスを確認しておく必要があります。
- イベントに基づいてスクリプトを実行する場合は、[スクリプト]ページを使用してUnified Managerにスクリプトを追加しておく必要があります。
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

タスク概要

アラートは、ここで説明する手順に従って[アラート セットアップ]ページで作成できるほか、イベントを受け取ったあとに[イベントの詳細]ページで直接作成することもできます。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. *アラート設定*ページで、*追加*をクリックします。
3. *アラートの追加*ダイアログボックスで、*名前*をクリックし、アラートの名前と説明を入力します。
4. *Resources*をクリックし、アラートに含めるまたはアラートから除外するリソースを選択します。

*名前に含む*フィールドにテキスト文字列を指定してフィルタを設定すると、リソースのグループを選択できます。指定したテキスト文字列に基づいて、使用可能なリソースのリストには、フィルタルールに一致するリソースのみが表示されます。指定するテキスト文字列では大文字と小文字が区別されます。

あるリソースが対象に含めるルールと除外するルールの両方に該当する場合は、除外するルールが優先され、除外されたリソースに関連するイベントについてはアラートが生成されません。

5. *Events* をクリックし、アラートをトリガーするイベント名またはイベント重大度タイプに基づいてイベントを選択します。



複数のイベントを選択するには、Ctrlキーを押しながら選択します。

6. *アクション* をクリックし、通知するユーザーを選択し、通知頻度を選択し、トラップ受信者に SNMP トラップを送信するかどうかを選択し、アラートが生成されたときに実行するスクリプトを割り当てます。



該当するユーザのEメール アドレスを変更し、その後アラートを編集するために開くと、[名前]フィールドは空欄になります。これは、Eメールが変更されたことでユーザとのマッピングが無効になったためです。また、選択したユーザのEメール アドレスを[ユーザ]ページで変更した場合、変更後のEメール アドレスは反映されません。

SNMPトラップを使用してユーザに通知することもできます。

7. *保存*をクリックします。

アラートの追加例

ここでは、次の要件を満たすアラートを作成する例を示します。

- アラート名：HealthTest
- リソース：名前に「abc」を含むすべてのボリュームを対象に含め、名前に「xyz」を含むすべてのボリュームを対象から除外する
- イベント：健全性に関するすべての重大なイベントを対象に含める
- 処理：「Test」スクリプトを割り当て、「sample@domain.com」のユーザに15分ごとに通知する

[Add Alert]ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。

1. *名前*をクリックし、*アラート名*フィールドに`HealthTest`入力します。

2. *Resources*をクリックし、Includeタブでドロップダウンリストから*Volumes*を選択します。
 - a. *名前を含む*フィールドに`abc`を入力すると、名前に「abc」が含まれるボリュームが表示されます。
 - b. [使用可能なリソース] 領域から <<All Volumes whose name contains 'abc'>> を選択し、[選択したリソース] 領域に移動します。
 - c. *除外*をクリックし、*名前に含まれる*フィールドに`xyz`を入力して、*追加*をクリックします。
3. *イベント*をクリックし、イベントの重大度フィールドから*重大*を選択します。
4. [一致するイベント] 領域から 全ての重要なイベント を選択し、[選択したイベント] 領域に移動します。
5. *アクション*をクリックし、「これらのユーザーに警告」フィールドに`sample@domain.com`入力します。
6. ユーザーに 15 分ごとに通知するには、*15 分ごとに通知*を選択します。

指定した期間、受信者に繰り返し通知を送信するようにアラートを設定できます。アラートに対してイベント通知をアクティブにする時間を決める必要があります。

7. [実行するスクリプトの選択] メニューで、**Test** スクリプトを選択します。
8. *保存*をクリックします。

ONTAP Active IQ Unified Managerアラート設定を構成する

Active IQ Unified Managerのどのイベントがアラートをトリガーするか、それらのアラートの電子メール受信者、およびアラートの頻度を指定できます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

タスク概要

次のタイプのパフォーマンス イベントについて、固有のアラートを設定できます。

- 重大イベント：ユーザ定義のしきい値に違反したときにトリガーされる
- 警告イベント：ユーザ定義のしきい値、システム定義のしきい値、または動的なしきい値に違反したときにトリガーされる

デフォルトでは、すべての新規イベントについて、Unified Managerの管理者ユーザーにEメールアラートが送信されます。他のユーザーのEメールアドレスを追加することで、そのユーザーにもEメールアラートを送信できます。



特定のタイプのイベントに関するアラートの送信を無効にするには、そのイベント カテゴリですべてのチェック ボックスをオフにする必要があります。この処理を行っても、イベントがユーザー インターフェイスに表示されなくなることはありません。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > *アラート設定*を選択します。

[Alert Setup]ページが表示されます。

2. *追加*をクリックし、各イベントタイプに適切な設定を構成します。

Eメール アラートを複数のユーザに送信する場合は、各Eメール アドレスをカンマで区切って入力します。

3. *保存*をクリックします。

ONTAP Active IQ Unified Managerのパフォーマンスの問題を特定する

パフォーマンスイベントが発生した場合、Active IQ Unified Manager内で問題の原因を特定し、他のツールを使用して修正することができます。イベントに関するメール通知を受け取ったり、日々の監視中にイベントに気付いたりすることもあります。

手順

1. Eメール通知に記載されたリンクをクリックし、パフォーマンス イベントが発生しているストレージ オブジェクトに直接移動します。

状況	操作
イベントのEメール通知を受け取った場合	リンクをクリックしてイベントの詳細ページに直接移動します。
[Event Inventory]ページを分析中にイベントに気付いた場合	イベントを選択してイベントの詳細ページに直接移動します。

2. システム定義のしきい値を超えたイベントの場合は、画面に提示される対処方法に従って問題を解決します。
3. ユーザ定義のしきい値を超えたイベントの場合は、イベントを分析して対処が必要かどうかを判断します。
4. 問題が解決しない場合は、次の設定を確認します。
 - ストレージシステムのプロトコル設定
 - イーサネットまたはファブリックスイッチのネットワーク設定
 - ストレージシステムのネットワーク設定
 - ストレージシステムのディスクレイアウトとアグリゲートメトリック
5. 問題が解決しない場合は、テクニカル サポートに問い合わせます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。